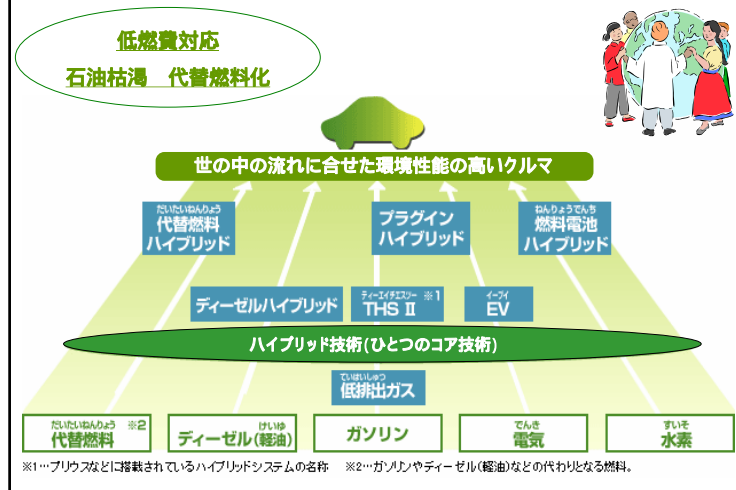


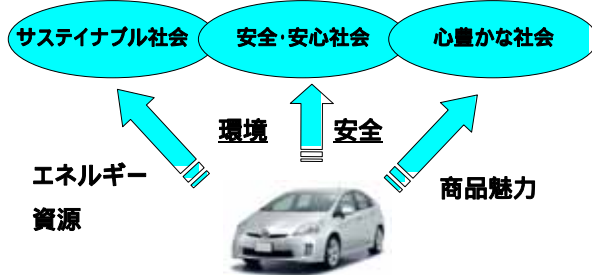
新研究開発施設の必要性とあらし 環境配慮の検討状況

2010年5月16日
トヨタ自動車株式会社

2. これからの自動車に求められる性能(環境)



1. 事業計画の背景

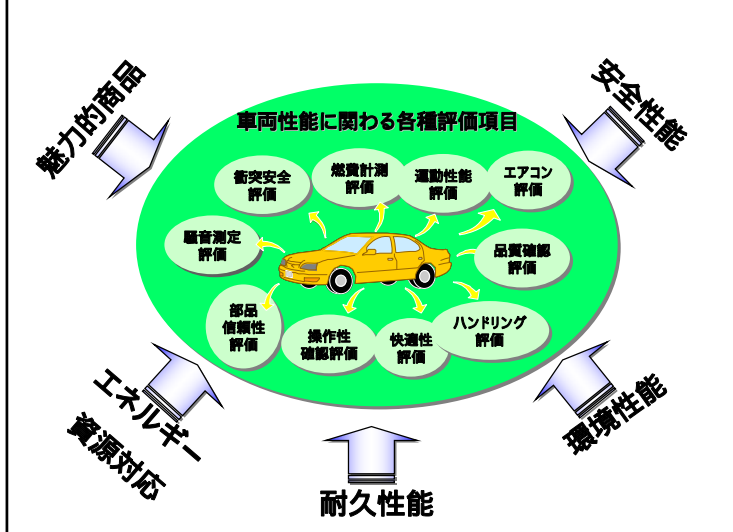


環境性能・安全性能などの一層の向上が
これからのクルマ作りにとって大変重要

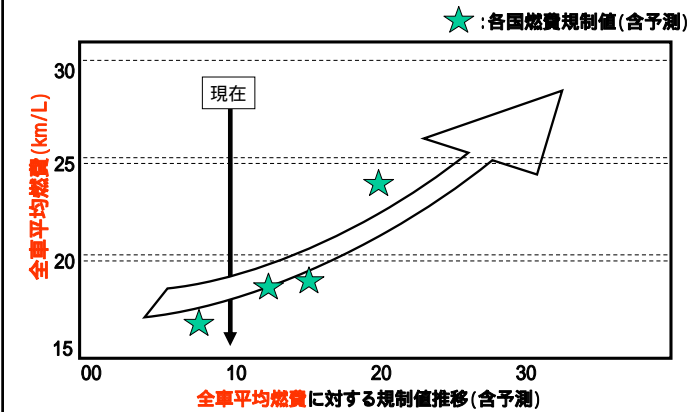
2. これからの自動車に求められる性能(安全)



3. 車両開発における多種多様なニーズ

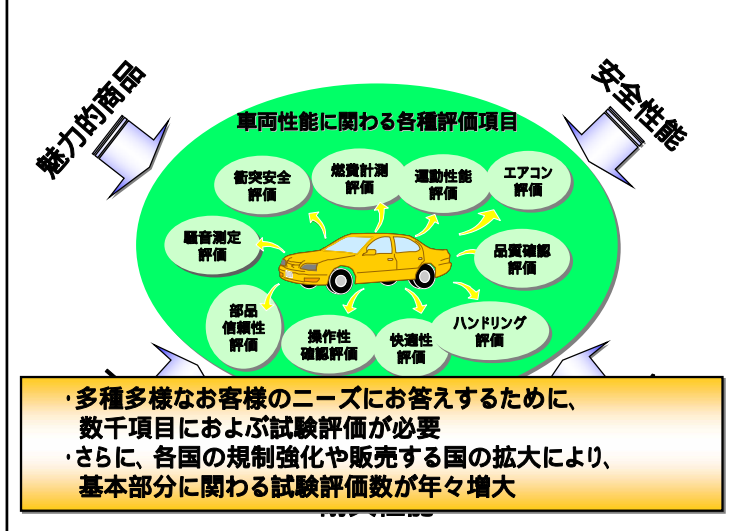


4. 燃費規制の動向



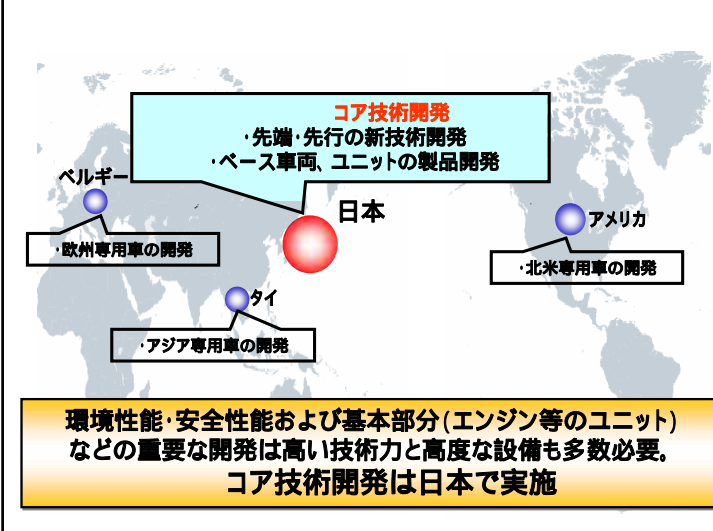
車両開発を取巻く規制動向は厳しさを増し、燃費性能に優れたクルマの開発が必要

3. 車両開発における多種多様なニーズ



・多種多様なお客様のニーズにお答えするために、数千項目におよぶ試験評価が必要
 ・さらに、各国の規制強化や販売する国の拡大により、基本部分に関わる試験評価数が年々増大

5. トヨタの研究開発施設(グローバル)

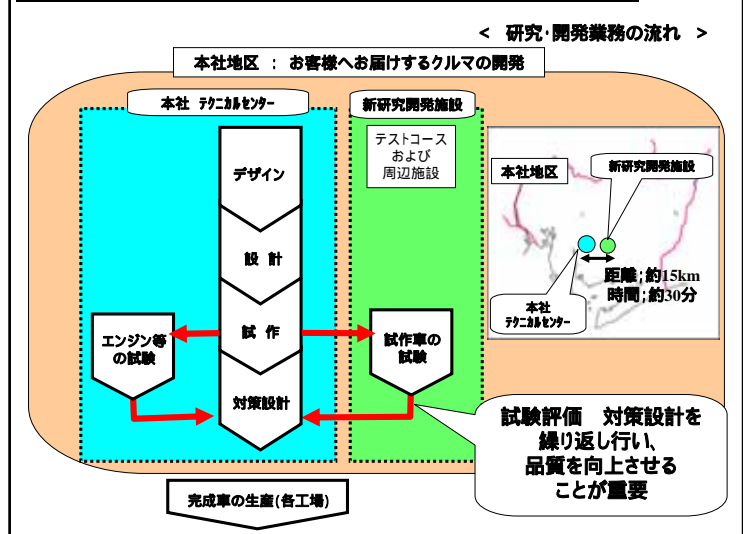


環境性能・安全性能および基本部分(エンジン等のユニット)などの重要な開発は高い技術力と高度な設備も多数必要、コア技術開発は日本で実施

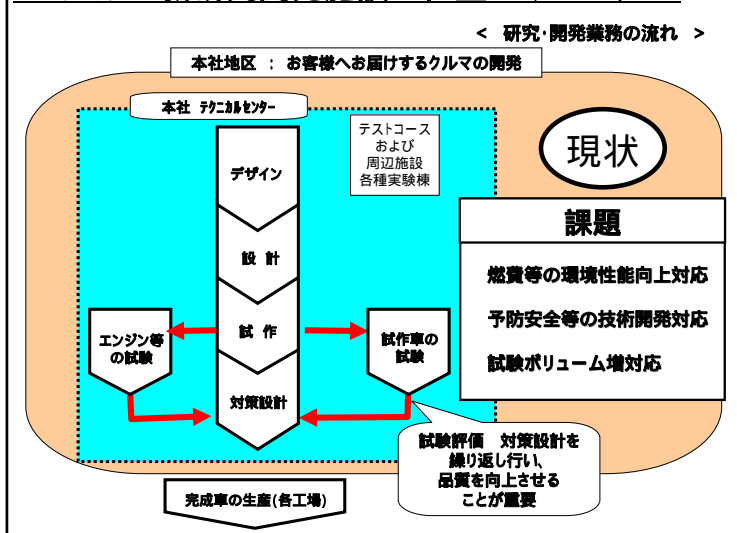
5. トヨタの研究開発施設(国内)



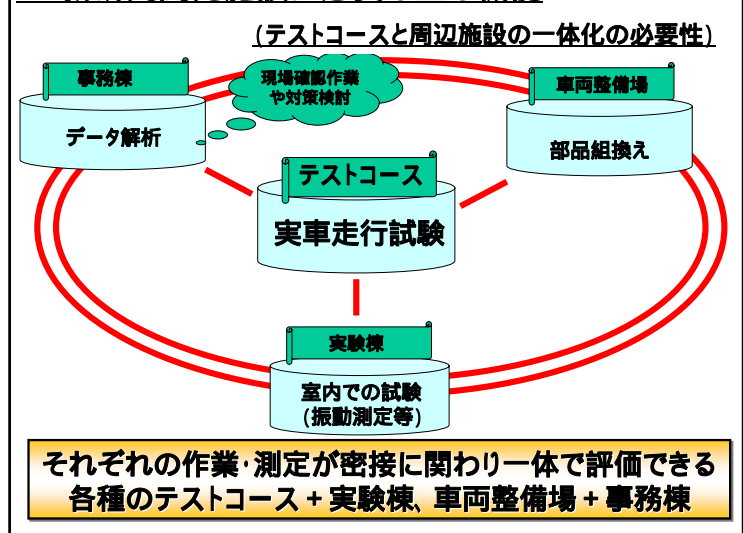
6. トヨタの新研究開発施設の位置づけ <3>



6. トヨタの新研究開発施設の位置づけ <1、2>

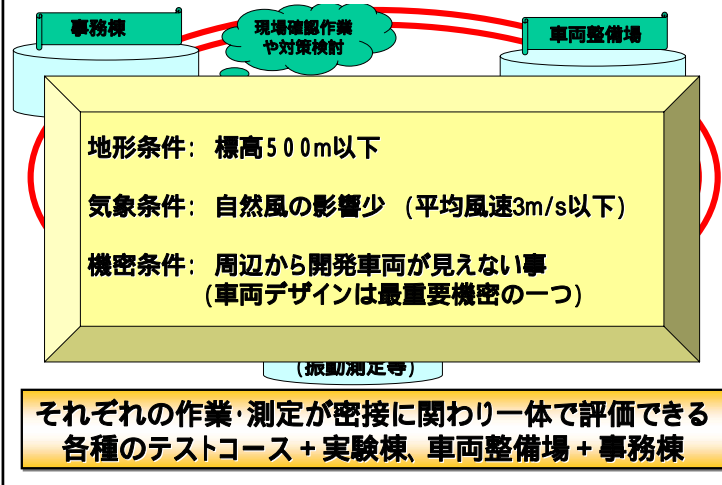


7. 新研究開発施設に必要な主な機能

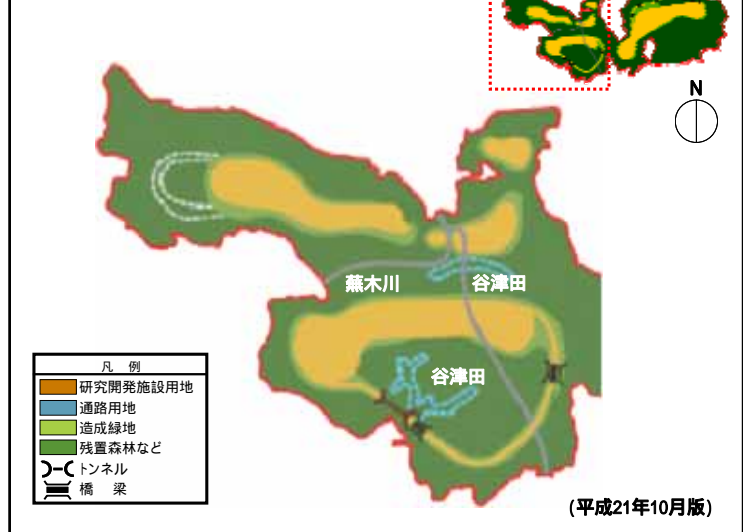


7. 新研究開発施設に必要な主な機能

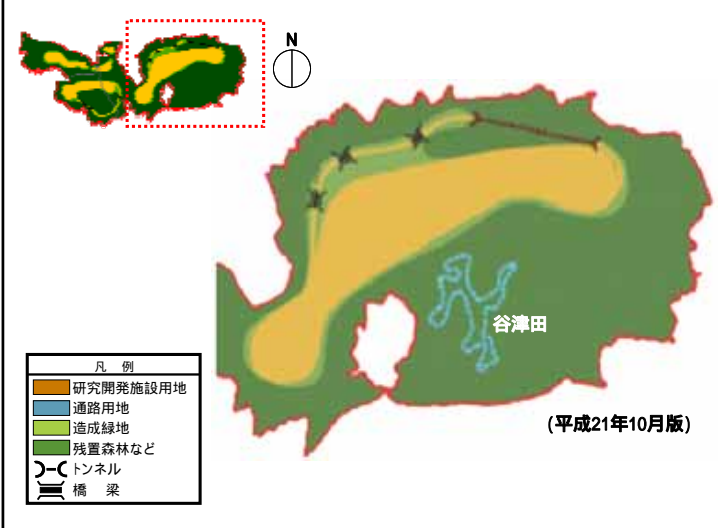
(テストコースと周辺施設の一体化の必要性)



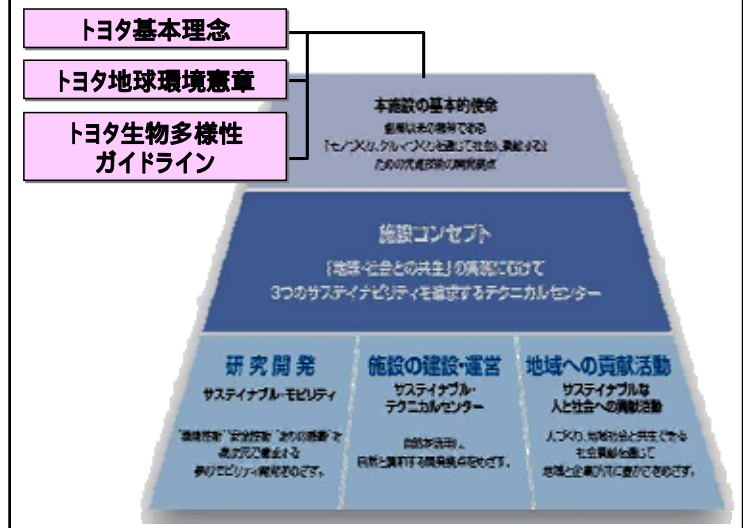
9. 土地利用構想図(西側エリア)



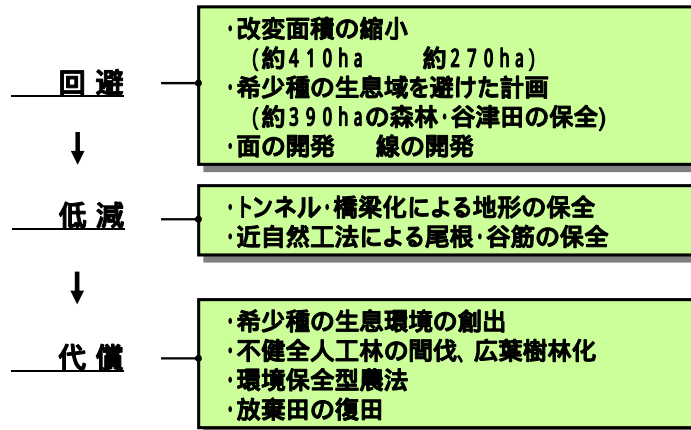
8. 土地利用構想図(東側エリア)



10. 新研究開発施設のコンセプト



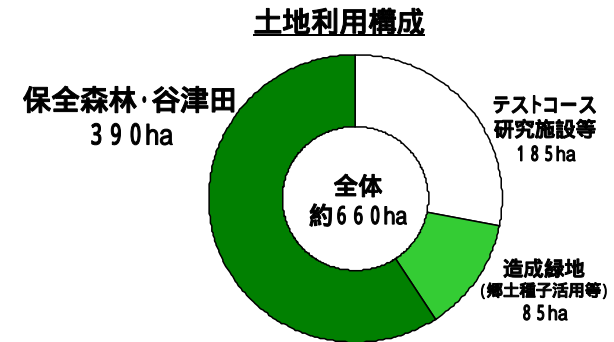
11. 環境配慮に関する検討経緯



13. 保全エリアの確保

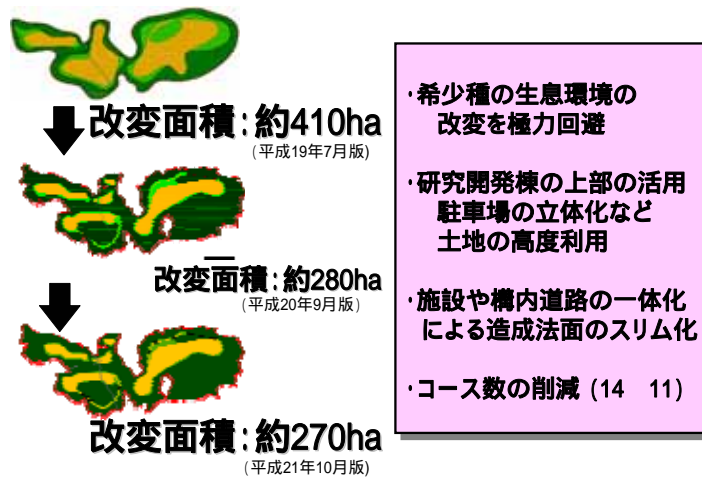
回避

- ・約390haの森林・谷津田を保全(計画地の約59%)
- ・約85haを緑化(計画地の約13%)



12. 施設計画の大幅な見直し

回避



14. 造成計画における配慮

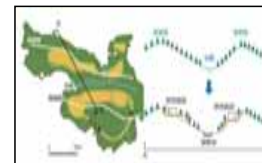
低減

自然環境、生息環境に配慮した計画

トンネル・橋梁化による地形の保全



近自然工法による尾根・谷筋保全、調整池を利用した水辺環境創出



15. 希少種保全に関する取組み <1>

代償

例1. サシバ

1) 調査により把握された生息環境

- ・営巣木: アカマツ
- ・餌生物: カエル類やヘビ類(水田等)
ヤマユガ(落葉広葉樹林)



2) 対策案

- ・営巣環境の整備・維持
アカマツを含む針広混交林の保全
- ・餌場環境の維持向上
環境保全型農法
落葉広葉樹林の維持・保全



16. 森林環境保全に関する取組み <1>

代償

適切な森林整備による 水土保全機能、生物多様性等の向上

	現状	当面の整備内容	長期的な誘導区分	期待する機能
人工林	健全林	不良木を伐採 中程度の間伐	老齢残存の人工林	水土保全 生物多様性 生産活用
	不健全林	強度間伐により、 天然の広葉樹の 発生を促進	針広混交林化 スギ・ヒノキと 広葉樹が混生	水土保全 生物多様性 (重要種保全)
二次林	自然遷移が進行する二次林	小面積皆伐等により 落葉広葉樹林 へ誘導	落葉広葉樹林化 ツルハ アカマツ シロコシ 生息地	生物多様性 (重要種保全) 生産活用
	希少種の生息適地 その他エリア	小面積皆伐等で更新	若齢二次林 (新炭林)	水土保全 生物多様性
		自然遷移	常緑広葉樹林	

15. 希少種保全に関する取組み <2>

代償

例2. ホトケドジョウ

1) 調査により把握された生息環境

- ・流れの緩やかな水域に繁殖
(水田内水路など)
- ・水田、水路間を移動



2) 対策案

- ・水田内水路の創出・維持
- ・水田、水路間の
連続性の確保・改善



16. 森林環境保全に関する取組み <2>

代償

適切な間伐の実施

間伐前



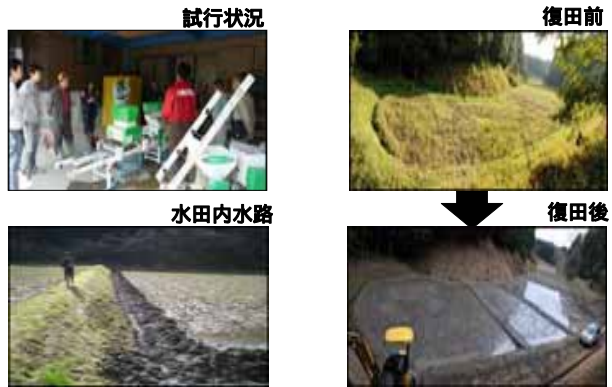
間伐後



17. 谷津田環境保全に関する取組み

代償

環境保全型農法、放棄された水田の復旧



18. 施設供用後の環境配慮

- ・モニタリングによる効果確認と取組みの再検討
- ・環境学習施設の運営
- ・環境活動に関する情報の発信

19. 今後の検討課題

- ・ミソゴイ配慮を盛込んだ一層の環境配慮検討
- ・地域と連携した里山保全活動のあり方検討など

20. 地域協働と貢献

